

10月2日に、「科学コミュニケーター疑似体験講座」の2回目が実施されました。担当した展示物の解説を行うということで、生徒は朝から緊張した面持ちでした。

あらかじめ定められたルールにのっとり、8分間の持ち時間をそれぞれの生徒が、クイズ形式で進めたり身ぶり手ぶりで表現したりと、工夫を凝らして発表をしてくれました。スーパーカミオカンデや素粒子、しんかい6500等、難しい展示物にも関わらず、どの生徒もカンペをそのまま読むということはせず、聞き手とコミュニケーションをしっかりととりながら進めていたのには非常に感動しました。そして、クラスも部活も異なる生徒どうしても、非常に楽しんで終始和やかに過ごしている様子で、話が盛り上がり、時間を超過してしまうということも多々みられました。

近くを通った一般客や科学コミュニケーター、ボランティアの方々もいる中、大変よく頑張りました。事前準備が大変で負担も大きかった講座だと思いますが、この経験はきっとこれからの学校生活で役に立つと願っています。



